

施策目標 6 持続可能な経営基盤



取組の方向性

- ・工業用水道の将来の水需要を踏まえ、令和22(2040)年度を目途に馬入川系統施設を廃止し、相模湖系統へ統合します。
- ・馬入川系統の廃止に合わせて、工業用水道事業としてゼロカーボン(温室効果ガス排出実質ゼロ達成)を目指します。

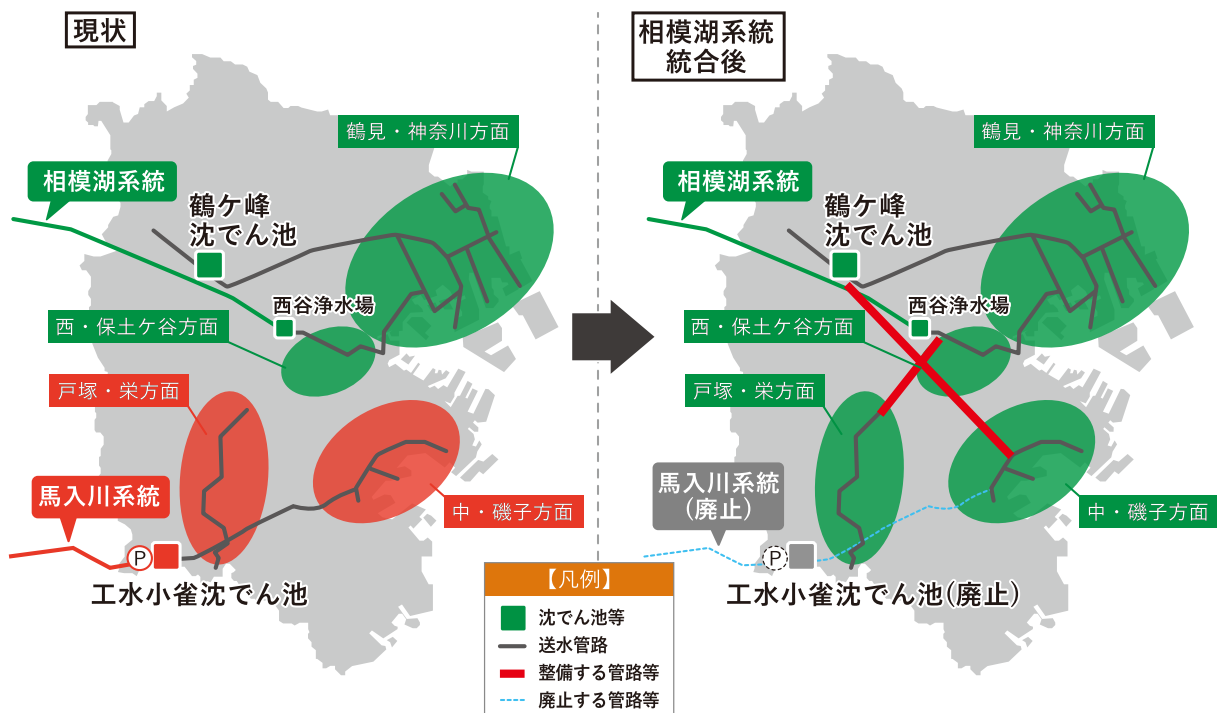
指標

指標名	現状値	目標値
相模湖系統への統合に向けた施設整備	—	工事着手 (R9年度)

施策及び主要事業

施策2：工業用水道施設の再構築

主要事業2 相模湖系統への統合に向けた施設整備



工業用水道の給水ゾーンの現状と統合後のイメージ図

施策2:工業用水道施設の再構築

現状と課題

工業用水道事業の現在の契約水量は約25万m³/日となっています。ユーザー企業における生産体制の再構築等が進み、将来は水需要が減少していくことが見込まれています。

工業用水道の各施設は老朽化が進み、今後は更新時期を迎えます。効率的な事業運営を行うためには、自然流下系の優先的な利用や耐震化を推進しつつ、将来の水需要に見合った適切な規模へダウンサイジングしていく必要があります。

馬入川系統は導水にポンプを使用しており、エネルギー消費が大きいことに加え、大規模停電時などによる断水リスクを抱えていることから、環境負荷や断水リスクの低減化に取り組む必要があります。

主要事業2 相模湖系統への統合に向けた施設整備【新規】

事業費 8.9億円

- ・工業用水道の将来の水需要を踏まえ、給水の安定性や施設の更新費用削減、環境負荷低減の観点から、令和22(2040)年度を目途に馬入川系統を廃止し自然流下系の相模湖系統へ統合するため、新たな施設整備計画を策定します。
- ・馬入川系統の廃止により電力消費量が大幅に削減できることから、工業用水道事業としてゼロカーボン(温室効果ガス排出実質ゼロ達成)を目指します。
- ・現在、馬入川系統の施設によって給水している中区、磯子区、戸塚区、栄区のエリアに自然流下系である相模湖系統から給水できるよう管路等の整備に着手します。
- ・また、相模湖系統に統合した場合、現在の相模湖系統の水利権では水量が不足することが見込まれることから、必要な水量が確保できるよう、河川を管理する国土交通省等の関係者との調整・協議を進めていきます。

想定事業量	現状値	目標値
統合に向けた施設整備計画の策定	—	策定 (R7年度)

コラム

持続可能な工業用水道に向けて

本市の工業用水道事業の料金制度は、二部料金制を採用しており、施設の維持管理費等の固定的経費は契約水量に基づく基本料金で回収し、変動的経費は使用水量に基づく使用料金で回収することを原則としています。

現在、施設の老朽化が進んでおり、更新には膨大な費用がかかることが見込まれている一方、水需要の減少に伴い、料金の減収やユーザー企業における契約水量と使用水量の乖離が大きくなっている課題が生じています。水需要に合わせて個々にユーザー企業の契約水量を減量した場合、ユーザー企業の当初の契約水量に応じた負担の公平性を担保できなくなる恐れがあります。

そのため、ユーザー企業が組織している協議会等を通じて、ユーザー企業と協調して施設整備計画を策定すること、計画を踏まえた持続可能な料金のあり方を検討することが必要です。